

<今回>334回目 2023年9月25(月)14時~17時 602会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p467、第5章九州王朝の領域と消滅 より

<前回>333回目(23-9-11)出席者10名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-8-28)のまとめ(清水)

2) 列島に、複数の国が存在した。(清水)

3) 赤羽刀と郭務棕最後の訪問(清水)

A 報告 久々に現メンバーが揃い、うれしい。いろいろ話題があり、それぞれ紹介しあった。

(1) 最初に榛葉氏から、東戸塚の古代史の会の募集を地区センターと相談して、継続する事になった。開始は10月11日より、月2回、第2、4水曜日午前中。募集締め切りは9月20日。チラシの右上に QR コードをつけた。選考基準、抽選に至るまでの人気ぶりは地区センター側も公平を期すため、苦勞している。何回も聞きたい人も多い。それが古田説の理解と浸透につき、重要なことと思う。

(2) 別に大墨氏が山本充子氏の紹介で、横浜・野毛山荘の場所で、「日本古代のペールをはがす旅」と題して、90分、11月21日、28日午後実施する事が案内された。40名定員、参加費400円。大墨氏は謙遜して半分も埋まらないときはどうしようと不安を漏らしていたが、場所もよいし、演題もよいし満員以上になるだろう。

B 資料2「列島に複数の国が存在した」。は以前、山本さんから扶桑国の存在を気にされていたので、前回用意していたもの。(配布忘れ) 梁書の列伝第48の新羅の後に、倭、文身国、大漢国、扶桑国、女国5国の紹介が方向と距離を三国志に倣って表記されていることを示した。扶桑国は慧深が荊州に来て語ったと書かれている。文身国は倭国の東北7千里、大漢国は文身国の東5千余里、扶桑国は大漢国の東2万里、短里表記らしい、役人の名前は高句麗とよく似てる。

資料3 赤羽刀と郭務棕最後の訪問 赤羽は第2時世界大戦敗北後、日本が武装解除されたとき、値打のある刀剣類を東京の赤羽武器庫に保管した刀剣類を云う。昭和22年から随時返却された持ち主の分からなくなった刀を神奈川県立博物館に還されて、展示に行った経緯を紹介した。これを白村江の敗戦で、唐の郭務棕らが来た時の雰囲気をも日本書紀の記述から推測した。まずは自尊主義から収奪されたことを賜うと書いている。甲冑弓矢を以って郭務棕に賜うとあるが、これは逆に武装解除で、絹1673匹、布2852端、綿666斤は賠償の押収物であるから4桁の端数まで記されている。占領軍は日本書紀の8年間に、6回来ている。

追記として前回質問のあった、サチヤマ送還記事の天智紀の3人のお供の名前と、持統紀の大伴部博麻の奏上した3人のお供の名前の違いについて、過去に調べた人が居るか聞いたが、分からなかった。一応現時点の解釈として、サチヤマは主君だから同じとして、唐軍の手先として返されたときはサチヤマの身近な家来衆、博麻の奏上した仲間は、身売りの相談した軍丁階級の3人の名前を挙げた。当然1回目の時に書く3人は一緒に帰ってきた(返された捕虜はもつといただろう)。と報告をした。これに対して、1回目の韓島の勝は大分辺りに土地勘があるが、2回目は連の3人は創作だろうと言う意見も出た。が

これで本を読む時間が無くなり、読書は次回に持ち越しとなった。申し訳ない。333回目のまとめと334回のまとめから、続きを読むことになる。

210月9日(月)14時から17時まで 602 会議室

10月30日(月)14時から17時まで、602 会議室